



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ③

アベマキから森林の役割を学ぶ 口北小学校が森林教室

口北小学校(児童35人)が4月24日、口和町の釜峰山森林浴公園で森林教室を開きました。

広島北部森林管理署の職員から「公園内のアベマキは西日本でも最大。一番大きな木では幹の周囲が3m、高さが30mで、その樹齢は123年になる」などと説明を受けると、さっそく子どもたちは巨木を囲み、その大きさを体験していました。また、アベマキの樹皮からコルクが作られることや、二酸化炭素の吸収や保水など、環境に関する効果や役割などを学びました。

その後、木工教室も行われ、子どもたちは思い思いの作品を作りました。

木の大きさを体感する子どもたち。この公園は、地元自治振興区の協力で遊歩道などの管理も行われており、子どもたちから歩きやすいと好評でした。



"なの花"テーマに催し 総領なの花まつり

REPORT ④



▲なの花を飛ばしてかごに入れる

「第1回総領なの花まつり」が4月26日に開催されました。約15万本のなの花を楽しんでもらおうと、市役所総領支所や観光協会などが企画。当日は雨天のため、なかつくに公園から田総の里スポーツ公園の雨天ゲートボール場に会場を移して行われました。

町内外の家族連れなど約150人が訪れ、コントロールを競う「なの花飛ばし大会」や、距離を競う「紙飛行機飛ばし大会」、「なの花コンサート」などを楽しみました。

会場では、(株)さとやま総領からつきたてのもちが無料配布されたほか、稲草西自治振興区のうどんの販売など各種バザーもあり、地元の味を楽しんでいました。

REPORT ⑤

児童が高校生に田植えを学ぶ 庄原小・庄原実業が連携交流

庄原小学校の5年生68人が5月21日、庄原実業高校の実習田で田植え体験をしました。これは、児童たちに農業に親んでもらおうと、庄原小学校と庄原実業高校の連携交流学習の一環で行われ、生物生産学科2年生から田植えを学びました。

初めて田んぼに入る児童も多く、素足で田んぼに入ると「冷たい」「足が抜けない」と歓声を上げました。高校生の指導で一列に並び、約40分ほどで7アールの田植えを終えました。

泥んこになって植えた子どもたちは「泥の感触が気持ちよかった」「歩くのが難しかったけど、楽しかった」と笑顔でした。



▲泥だらけになりながら苗を植えていく子どもたち

庄原小学校では、地元の高校への理解を深めようと、稲刈りや果物づくりなど年間を通じて庄原実業高校と交流を深める予定です。

REPORT ①

観光シーズンの幕開けを祝う 風船舞う「帝釈峡湖水開き」



▲湖水を巡る龍船

◀約1500個の風船が青空に舞い上がる

「第42回帝釈峡湖水開き」が4月29日、神龍湖で行われました。

「トレイルセンターしんりゅう湖」前広場では、今シーズンの安全を祈願する神事や、神楽「おろち退治」"大黒舞"で観光シーズンの幕開けを祝いました。

湖では、龍をかたどった龍船が登場し、約1500個の

風船を舞い上げる初めての試みも行われ、大勢の観光客からの歓声と、写真愛好家が一斉にきるシャッター音が峡谷に響きました。

透き通るような青空の下、遊覧船で湖水を巡る観光客やボールすくいなどを楽しむ子どもたちでにぎわいました。

美しい園内をラン・ラン・ラン 備北丘陵公園マラソン大会

REPORT ②



▲元気良くスタートする子どもたち

新緑の中をさわやかに駆け抜ける第8回国営備北丘陵公園マラソンが5月13日、公園内で行われました。

子どもから高齢者まで過去最高の1722人がエントリー。2キロから20キロの4コースに分かれ、国兼池の湖畔やポピーの花畑が広がる園内を力走しました。

一般34歳以下10*の部で準優勝した迫慎一さん(西城町)は「30℃を超える暑さできつかったが、美しい風景を楽しみながらゴールを目指した」と笑顔で話していました。

関東や九州など遠方からのリピーターも増えており、今後さらに人気の高い大会として注目を集めています。

REPORT ⑨

4周年を祝いイベント
モーモー物産館「春の感謝祭」

4月26日に、口和町のモーモー物産館で「春の感謝祭」が行われました。

会場には、新鮮野菜や山菜などが並んだほか、4周年を記念して和牛の焼肉コーナーやフリーマーケットコーナーが設けられ、多くの来場者でにぎわいました。また、そば処「しんぎょう庵」では、感謝祭特別企画として本格手打ちそばの実演も行われました。

物産館を管理する(有)くちわの杉谷哲次さんは「これからも地域の方々に愛される物産館づくりを進め、口和町の情報発信の拠点にしていきたい」と抱負を話していました。



▲人気が高かった山菜の天ぷら。大型バスを貸し切って来た常連客も見られた。

みんなで咲かそう"人権の花"
各小学校へ花の種を配布

REPORT ⑩



高野小学校で4月22日、「人権の花」の贈呈式が行われました。これは、市の人権啓発事業の一環で、花の栽培を通して感謝する気持ちや命の大切さを学び、思いやりの心や人権思想を育むことを目的に毎年実施しています。

式では、人権擁護委員の小川益丸さんと柳原則明さんが児童代表に花の種と肥料を贈呈。その後、紙芝居で「命の尊さを実感し、やさしさと思いやりの心を育てよう」と呼びかけました。

この「人権の花」の贈呈は、市内の全小学校で行われました。

◀ 児童代表へ人権の花を贈る

REPORT ⑪

"火の用心"園児が呼びかけ
おひさま幼年消防防火パレード

西城保育所の年長と年中の園児51人でつくる「おひさま幼年消防クラブ」が4月24日、西城市街地の約1.5kmで、火災予防を呼びかけるパレードを行いました。

おひさま幼年消防クラブは昭和62年に結成し、毎年、林野火災が多発する4月に庄原消防署、庄原市消防団西城方面隊と合同でパレードを行っています。

火の用心と書かれたおそろいの法被を着た園児たちは拍子木を打ち鳴らし、「火の用心 みんなで守ろう 火の用心」と声をそろえて呼びかけました。沿道の住民は、かわいい子どもたちの列に声援を送り、防火に対する意識を新たにしました。



火の用心を呼びかけて歩く子どもたち ▶

REPORT ⑥

オープンを祝い出身者がライブ
比和特産市場イベント



▲市場前でバンド演奏

比和特産市場が4月19日、本年度の営業を開始し、イベントを行いました。

店頭には春の山菜・新鮮野菜・加工品などが並び、杵つきもちの実演販売、豚汁の無料サービスも行われ、オープンを待ちわびていた買い物客でにぎわいました。

今年は比和町出身の田中益豊さんのバンドグループ「ウーリトゥーリー」がライブを行い、オープンを祝いました。

この特産市場は12月まで、毎週土・日曜日の7時から12時まで営業しています。



▲買い物客でにぎわう特産市場

地域の支えで芋づくり
永末保育所が苗を植え付け

REPORT ⑦



▲苗を植え付ける子どもたち

永末保育所(園児16人)が5月13日、地元の農業法人「夢ファーム永末」の協力で、サツマイモの植え付け体験をしました。

「苗を寝かすように置いて、土の布団をかけてあげようね」と植え方を教えてもらい、園児たちは「甘くて大きなお芋になってね」とお願いしながら、50本の苗を植え付けました。

4年目を迎える芋づくりに、指導した永井敏行さんは「園児の保育活動に役立てば幸い」と笑顔で園児の様子を見つめ、永末保育所の山中淳子所長は「園児には地域の人の温かさ、サツマイモの成長を通して自然の恵みを感じてほしい」と話していました。

秋には、収穫したサツマイモで、保護者・祖父母・未就園の親子と一緒に焼き芋パーティーを予定しています。

REPORT ⑧

ガイドマップを地域学習に活用
東小学校が地域資源を学ぶ

東小学校の3年生25人が5月12日、東自治振興区が作製した「東地区歴史・散策ガイドマップ」を活用し、バスで東地区の名所を巡りました。

社会科で自分たちの住んでいる地域を知ることが狙い。東自治振興区の永谷兼彦さんと白池章子さんが案内役を務め、郷土力士「大勇」の記念碑や古墳が数基存在していたという「上人塚」など17カ所の名所を説明しました。

子どもたちは「初めて知ることが多く、楽しかった」と好評で、永谷さんは「ガイドマップは学校の地域学習にも活用してほしいと思って作製したので、子どもたちの役に立ててうれしい。自分たちの住んでいる地域を知ること、郷土に愛着を持って成長してほしい」と話していました。



▲ガイドマップを広げて「上人塚」の説明をする永谷さん